

平成 27 年度 第 3 回学校協議会

## 平成 27 年度府立野崎高等学校第 3 回学校協議会議事録

日時：平成 28 年 2 月 26 日(金)

14:00~16:00

於：本校会議室

司会：榎 教頭

記録：浅田 竜

大井麻由子

大槻 健太

### 【次第】

- 1、校長挨拶
  - 2、事務局より
  - 3、協議・意見交換
  - 4、会長より
  - 5、事務局より
- 

#### 1. 校長挨拶

- ・ 3 月 2 日卒業式について。
- ・ 39 期生(2 年)修学旅行終了。
- ・ インフルエンザ罹患者多発により 2 月 3 日、2 年生休業対応につて。
- ・ 今年度の入試制度の変更について。
- ・ 2 月 27 日に開催される学校説明会について。
- ・ 40 周年記念式典について。

#### 2. 事務局より

ア、榎教頭より資料について確認

#### 3. 学校からの報告

ア、校長より平成 27 年度学校経営計画及び学校評価についての報告

- ・ 年度末までに学校経営計画に学校経営推進費についての項目も付け加えて提出する。

#### 授業改善について

- ・ HR 教室へのプロジェクター設置に伴い ICT 研修を実施した。これにより、パソコン操作に熟達していない教員も含め、教員全体が ICT を授業で積極的に活用するようになった。

#### キャリア教育について

- ・学校斡旋による就職は引き続き 100%を目標とする。
- ・学年別で、多岐に渡る進路説明会を開催した。大阪府中小企業家同友会と連携した講演会には 40 名ほどの企業家の方々に参加していただいた。

#### 生徒指導について

- ・年間の遅刻総数を 20%減少させるという目標を掲げていたが、これは達成できそうにない。
- ・遅刻の総数自体は昨年度より若干減少する見込みである。
- ・遅刻指導を厳しくするなど、様々な工夫をした結果であるので、今後は厳しさだけでなく、様々な角度からアプローチしていく総合的な方策が必要だ。

#### 教員研修体制の構築について

- ・今年度は、多岐にわたって教員研修を実施することができた。教員の多忙な中ではあるが、意図的に研修を実施することで多くの成果が得られた。生徒の成長のため、教員自身も学びつづけていかなければならない。

#### イ、教頭より平成 27 年度学校教育自己診断の結果について

##### 肯定的な評価の多い項目

- ・生徒、保護者とも「規範意識」に対する評価が共通して高かった。  
→自分自身や子どもに対して、規範やルールを守って学校生活を営んでいるとの認識を持っている。

##### 肯定的な評価の少ない項目

- ・生徒は、「清掃」と「情報提供」に関する項目への評価が向上。  
→ただし、保護者からは高い評価を得ていた公式ブログに対する評価が芳しくなかった。  
ブログに関しては、生徒への周知が十分でないようだった。
- ・保護者は、「相談教員」の項目への評価が向上。  
→学年を追うごとに評価が高くなっているため、生徒にとって大きな問題はないと考えられる。

#### 前年度との比較

- ・人権教育に対する評価が向上（生徒・保護者とも）。  
→要因を探る必要あり。
- ・野外活動に対する評価が低下（生徒）、野崎満足度などの項目が低下（保護者）。  
→同一期生を経年比較すると、38 期生(3 年生)・39 期生(2 年生)はほぼ横ばい状態である。  
他学年と比べると、40 期生(1 年生)の評価が平均的に低いことがわかる。

#### 各学年の特徴

- ・38期生：保護者の肯定的評価が低い。
- ・39期生：多くの項目への評価が向上。特に遅刻指導に対する評価が高い。
- ・40期生：生徒、保護者ともに全体的な評価が低い。人権教育・いじめや差別への対応に関しての項目に対する保護者の評価は高い。

#### 教職員の評価について

- ・教員の学校に対する評価が高まっている。特に、『『わかる授業』のため学校全体で研修している』、「学校運営に教職員の意見が反映されている」、「生徒に合わせたカリキュラム作りがなされている」、という項目への評価が大きく向上した。

#### ウ、教頭より第2回授業改善の結果について

##### 授業アンケートについて

- ・生徒からの評価を見ると、全体的には上昇傾向にある。
- ・過去の最高値を更新した項目が6項目あった。

#### エ、前田首席より進路指導状況について

##### 現状報告

- ・現時点では、未定の生徒に対しても年度内の確定に向けて、引き続き支援を行っている。

#### 新しい傾向

- ・進学先はおおむね例年と変わらなかったが、数字に表れていない部分では少し変化がみられる。面接や作文のみのAO入試や指定校推薦入試だけではなく、公募制推薦入試や一般入試に挑戦する生徒が増えてきた。大学進学への意欲的な生徒の進路を広げるためにも、より高度な学力定着を保障する体制作りが課題である。
- ・就職については、少ない年では300件ほどであった年間求人数が、今年度は500件近くになり、大幅に増加した。ただし、求人数が増えても内定が得やすくなったわけではなく、条件を満たさなければ採用には結びつかないので、苦戦している生徒もいる。

#### オ、宮崎生徒指導部長より生徒指導について

- ・服装指導に関しては、今年度全学年が新制服に揃ったことにより、明確なルールのもと、徹底して指導することができた。そのため、指導対象者も大幅に減少している。
- ・校外からの苦情数は44%減少し、懲戒人数も44%減少した。毎日の巡回や問題行動に対する迅速な対応等、生徒指導部を中心にして全教員の協力体制が整っている。生徒の規範意識も高まってきたと見受けられる。
- ・かねてから重要項目であった自転車の交通マナーに関して、今年度「スケアードストレイ

ト」を開催することができた。実際の事故に近い場面を再現して見せることで、生徒達は少なからず衝撃を受け、自身の日頃の交通マナーについて省みることができたようだ。その後2月に交通安全週間を設け、警察と連携して、登校時の指導を行った。

- ・遅刻については、昨年度よりも指導要件を厳しくした。しかし、6月頃から遅刻数は増えていき、指導を厳しくするだけでは限界があると感じている。各学年独自の取り組みが功を奏し、最終的には昨年度比で若干減少という結果になった。次年度は特に遅刻が増える時期（6月・10月頃）を狙って、重点的に対策を打とうと考えている。

オ、前田首席より広報活動について

- ・今年度よりブログを、学校の取り組み等、ことあるごとに掲載するようにした。

1 1月下旬以降、本日までの主な取り組みについての報告

- ・ 11/26(木) 3年生人権講演会
- ・ 12/5(土) だいたいキャンドルナイト 2015
- ・ 12/8(火) 四条中学校「学び合う授業づくり」教え研修への参加
- ・ 12/9(水) フレッシュパーソンズ研修
- ・ 12/16(水) 介助犬のひろば in 大東 2015
- ・ 12/24(木) パワーポイント講習会
- ・ 1/12(火)～2/23(火) 教員相互の授業公開「オープンクラス」実施
- ・ 1/16(土) 第1回学校説明会
- ・ 1/18(月) 学校経営推進費の活用状況府教委調査
- ・ 1/19(火) 府教委「英語モデル授業」撮影
- ・ 2/4(木) 卒業生体験を語る会
- ・ 2/10(水) 39期生 学年レクレーション
- ・ 2/27(土) 第2回学校説明会

今年度の反省と次年度に向けて

- ・ なかなか学校全体の組織として広報活動に取り組むことができなかった。来年度は教員全体でやっていく。
- ・ 体験入学会では、説明や引率で在校生が活躍する場をさらに増やしていきたい。

3.協議・意見交換

委員： 教員が一生懸命頑張り、生徒もそれによくついて行っている。里山ボランティアに現在参加している生徒は素晴らしいが、もう少したくさんの方の人数を参加させるよう呼びかけてほしい。

委員： 卒業率が増加しているのは、やはり教員の尽力の成果ではないか。

ただ、物事はできるだけ単純にしていかなければならない。複雑化すると、何が目的かわからなくなってしまう。目指すべき生徒像に立ち返って、目的を見失わないようにする必要がある。

学校教育自己診断の「相談教員」の評価が高いことは素晴らしい。これからも現状維持か、それ以上に高く保って行ってほしい。

委員： 学校教育自己診断の保護者の評価が低いことについて、チェックシートは質問意図や内容がわからないことがある。しかし、評価の選択肢に「わからない」という項目がないため、否定的な評価を下さざるを得なかった保護者が多いのではないか。

また、毎年同じ項目に対して回答させることについても検討の余地がある。たとえば修学旅行についての質問では、実施前、実施直後、1年以上後では印象が変わるのは当たり前だ。自由記述欄を読んでいる限り、家庭で指導すべきことを学校に求めている保護者がいることがわかる。

委員： 一人ひとりを大切にする、とは具体的にどのようなことなのか。重点項目の中の最重点項目は何か。根本を定めて、そこから発信していくことが重要である。多くの研修によって、教員間に共通意識ができているはずなので、ここからベクトルを合わせていくべきだ。

委員： 選択科目等のインパクトが弱い。

委員： 保護者アンケートの回収率が低い。保護者やPTAと連携して、提出率の向上を呼び掛けるべき。

委員： 個々に合わせた指導をしつつ、思い描く進路を実現させることが理想である。

委員： 進路が決まっていない生徒に対するフォローも引き続き行ってほしい。

#### 4. 会長より

大学においてもそこが問題である。Universityとは総合的に教育をする機関であり、日本の教育全体にも通じる問題である。学校の自己診断について、目標が達成され、現場にもフィードバックされていくPDCAサイクルがきちんと成立していることは良いことだ。

学校の教育力と家庭の教育力の相互作用によって、自己診断やアンケートの評価も向上させることが望ましい。また、教育は短時間で成果があがるものではなく、長い時間がかかるということを前提に、頑張っていってもらいたい。